

昭和十七年二月二十五日 印刷  
昭和十七年三月一日 (毎月一回一日發行) 本  
野 華 章

# 道路の改良

第二十四卷  
第三號

社団法人  
道路改良會

鋪裝報國

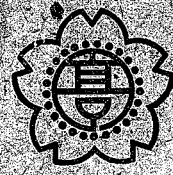
日本鋪道株式會社

東京・丸ノ内

東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

社長 淺利三郎

土木建築  
道路鋪裝  
工事請負



# 株式會社 高野組

本社

東京市京橋區越前堀二ノ一

電話京橋(56)一、九二三番・七、八二五番  
七、三二〇番・八、〇七三番

倉庫

東京市品川區東品川三ノ三

電話高輪(44)五、三三四〇番

大阪出張所

大阪市北區梅ヶ枝町一五七梅ヶ枝ビル

電話北(36)一、九五五番・一、九八八番

福岡出張所

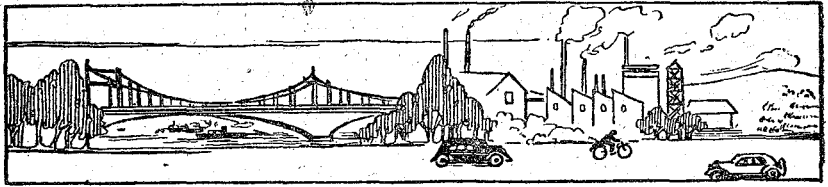
福岡縣糟屋郡和白村奈多

電話和白(二二)八番

上海出張所

上海市老靶子路三六九號

電話(四三)三三三番・三、九五〇番



道路の改良 第二十四卷 第三號 目次 昭和十七年三月一日發行

【口 繪】 伊太利ファイアット自動車工場屋上に於ける一方交通道路

卷頭言

論 說

國土防空と迷彩的道路其他 ..... 日本大學教授 松葉榮重(三)

研 究

獨逸の交通取締規則(二) ..... 多田基(二)

共榮圈内の經濟開發と交通(中) ..... H T 生(一九)

說 苑

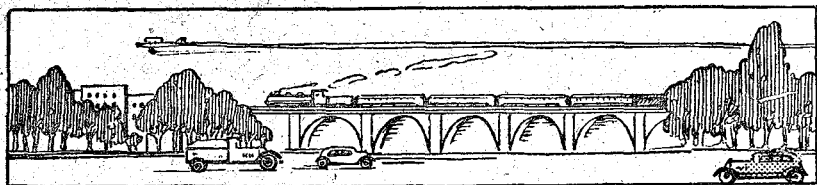
歴代内務土木局長と其時代 赤松小寅氏 ..... 清水生(二元)

時局下の道路維持に就て ..... 滋賀縣河村協(翌)

道路工夫の選擇 ..... 福岡縣土木部長(吾)

高知縣道路愛護運動の回顧 ..... 高知縣土木課(西)

米國陸軍の内幕と道路の話(二) ..... 日野生(天)



道と兵隊……………稼歌山縣土木課 根井友信(三)

時局日誌(五十三)……………Y H 生(五)

内務省特報

内務省告示◎賀屋大藏大臣の演説◎東條首相の聲明……………(二三)

◎大東亞戰爭完遂翼賛選舉貫徹運動に就て……………内務省(二四)

地方通信

福島縣須賀川に残る古墳……………其他……………(二七)

法令

鐵道省令……………(二〇)

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………S O 生(三〇)

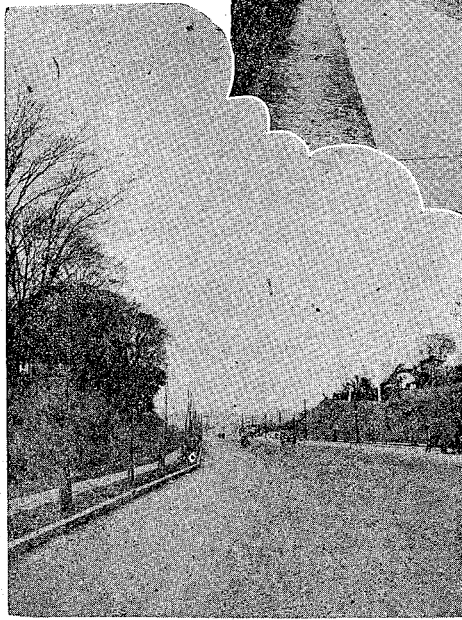
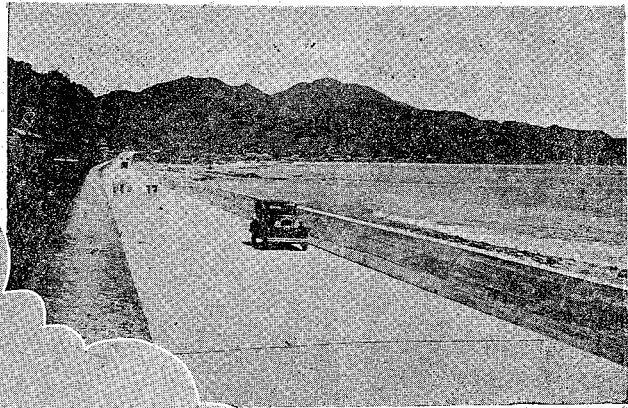
雜報

道路功績者の表彰◎内務大臣湯澤三千男氏◎内務次官山崎巖氏◎新舊兩大臣の挨拶

◎地方長官會議◎評議員金杉英五郎氏◎小川平吉氏◎近刊圖書雜誌……………(二六)

叙任/辭令……………(二四)

編輯室の外……………(二五)



淺野ポルトランドセメント  
一般工用

淺野高爐セメント

下水工事ニ

好適

淺野ベロセメント

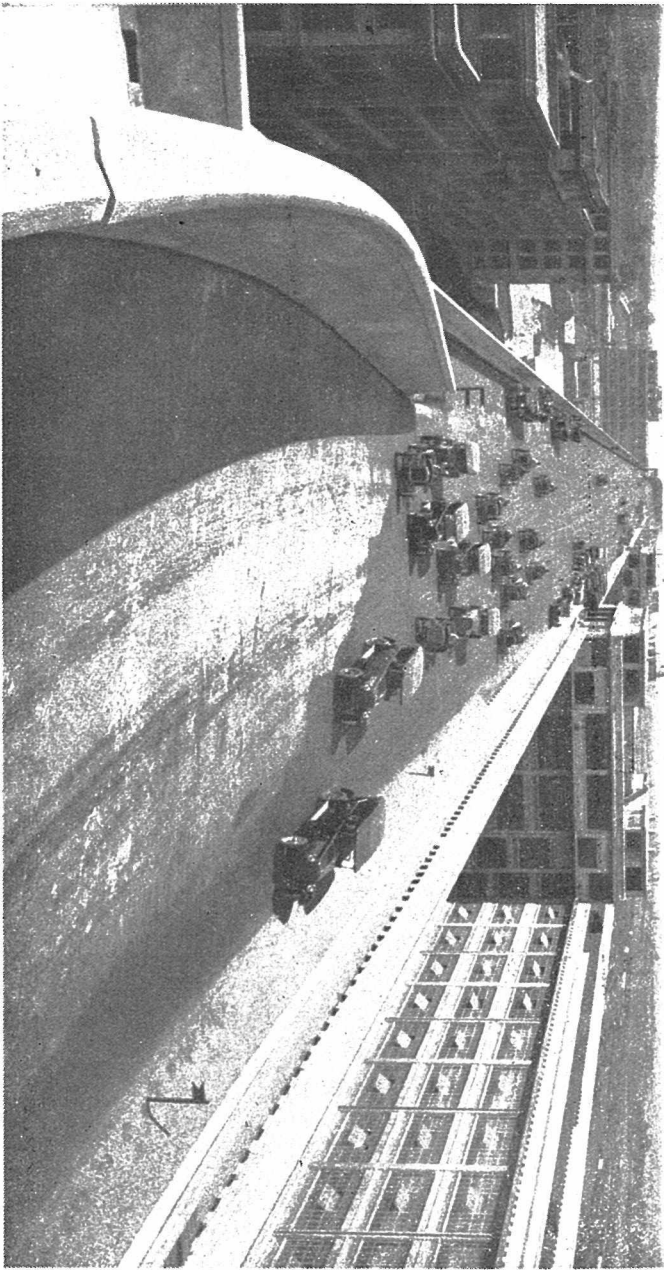
短期高強度

工事期間短縮

工事費節約

淺野セメント株式會社

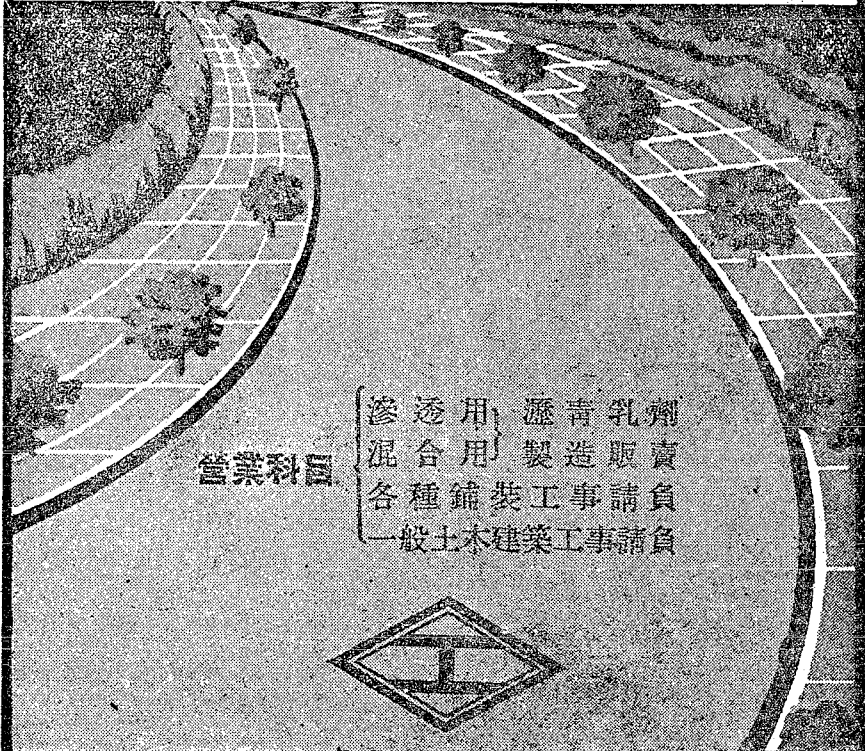
東京市丸ノ内海上ビル



伊太利安オート自動車工場上屋場方一交交通道路

# 道 路 鋪 裝

(力 夕 口 夕 冊 呈)



營業科目

瀝青乳劑  
製造販賣  
請負  
各種鋪裝工事  
一般土木建築工事請負

## 東 邦 工 業 合 資 會 社

本社 { 東京市赤坂區青山北町四ノ一〇三  
電話青山(36)四九七三・八一四八

工場 { 神奈川縣川崎市幸町三ノ六一二  
福岡縣小倉市富野町下道田一四一三ノ二

營業所 { 名古屋市・京都市・大阪市  
岡山市・廣島市・小倉市・熊本市



訂補重版出來！

内容見本御申越次第贈呈

# 道路職員必携

三五判壹千百餘頁  
レザークロス装函入  
定價金五圓

送料  
内地金十四錢  
臺灣、朝鮮、滿洲、支那金十八錢

本書は道路改良計畫並に其の設計の指針として、本會が特に道路技術並に行政の權威者三十餘名の方に執筆を依頼し完成したるものにして、内容は豊富に且つ記述も實に精緻を極めたもので、印刷装幀も鮮麗優雅にて携帯に便なるハンドブックである。

殊に道路構造令・街路構造令及細則につきても詳細に記載せる點に於ては、他に未だ嘗てその比を見ざるものにして斯界人士の必須書である。

目次 第一編總論、第二編道路の設計、第三編土工、第四編道路の排水設備、第五編鋪裝の構造及施工、第六編工作物、第七編都市計畫街路、第八編交通整理及街路照明の施設、第九編道路材料、第十編維持及修繕、第十一編要道路用器具機械、第十二編示方書、第十三編法規、(附録 測量に關する諸表其他)

發行所 好道館書會  
社団法人  
文館書會

本會々員及學生に限り  
特價金參圓五十錢に頒つ

東京市小石川區諏訪町五十六番地  
振替 東京 九〇二  
電話小石川(85)二三七七、二三七八、二三七九番

昭和十七年

道路の改良

三月一日

第二十四卷

第三號

# 言 頭 卷

天下は我等の言論に感動せず、吾等日夕の實踐行動こそは、人を動かし、國を動かし、天下を動かすものであると蓋し至言といふべきである。

ハワイにマレーに香港にシンガポールに將又南太平洋の諸島に赫々たる戦果を収めつゝある陸、海、空の將士は、天皇陛下のしこの御楯となつて、多大の犠牲者を出し、幾多の辛酸苦痛に耐へて其の任務に盡しつゝあるが一面から見れば彼等第一戦の將兵は日本の爲なるは勿論であるが、日本夫れは個々の日本人の運命の總和である再言すれば夫れは吾等遠である、夫は吾々の總ての市、町村の爲である、凡ての工場の爲である、凡ての學校の爲である、凡ての官衙公衙の爲である、個々の住宅の爲である、凡ての病院の爲である彼等第一線將兵の血に依つて凡ての日本人は守られて居る、良心に深く訊ね見よ、彼等に斯様な大きな英雄的な努力をなさしめて居るのは日本人の總和の爲に外ならない、如何に感謝し、感激し、敬申してよきや言説によるにあらず、唯、銃後國民としての本分を實踐するのみである。

東條内閣總理大臣はシンガポール陥落を頂點とする皇軍の雄渾なる作戦の進歩と歴史上空前の戦果が大東亞諸民族の前途と世界新秩序の建設にもたらす劃期的意義を強調して、大東亞戦争の目標とするところは我華國の大理想に淵源し大東亞の各國家、各民族をして、各々其の所を得しめ、皇國を核心として道義に基く共存共榮の新秩序を確立せんとするに在つて、彼の米英諸國の東亞に對する態度とは、全く其の本質を異にするものなることを明言せられたのである。實に斯くありてこそ大東亞戦争の有意義なることが明かにせられ吾等深く之を感得するものである。

此の華國の大精神に基づく聖戰の意義と大東亞大經綸の全貌を宣揚して愈々大東亞戦争が米英東亞侵略の近代世界史を根本的に覆滅して、八紘を以て一字となさんとする雄渾比類なき世界維新戰であることを世界に宣言したとも謂はる、蓋し八紘一字の意義は信であり、愛であり、協力である、信あるが故に疑なきものである愛あるが故に親しみて相背かざるものである、協力するが故に反撥せざるものである。

吾等は念ふ、斯くありて之を實踐に移すことに於て官も民もなく總力戰の根源となるべきを。(洗氏)